

学習の「質」を高める パフォーマンス評価

わが国の高等教育政策は、中央教育審議会の2つの答申、「学士課程教育の構築に向けて」(2008年)と「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」(2012年)により、〈教員が何を教えるか〉から、〈学生が何を学んだのか〉に焦点が移りました。

つまり、教員にとっては、学習成果として〈学生が何を学んだのか〉(=学習の質)をいかに評価するかが不可欠な要素となりました。本特集では、その方法として、パフォーマンス評価を取り上げます。

パフォーマンス評価は、2006年より旧厚生労働省看護研究研修センター幹部教員養成課程で考究し、教員に普及させてきました。しかし、そのツールのひとつである「ループリック」が一人歩きしている傾向があり、改めて、パフォーマンス評価とは何か、その学習観とともに、なぜ今注目されてきているのかを中心に紹介します。